

アンケート（案）に対する共生のまち部会等からの意見

資料 3

R7.9.30時点

No	提出者	資料番号	問番号	内容	回答
1	共生のまち部会	2-1	1	「ご家族の方などが代筆するか、ご本人の意思を尊重して」の部分をご本人の意思を尊重して、ご家族の方などが」に修正してはどうか。 また「ご家族の方」を「相談員の方、事業所の方、ご家族の方など」に修正してはどうか。	「～ご本人の意思を尊重して、ご家族の方や身近な支援者の方などが代わりに回答してください。」に修正します。
2	共生のまち部会	2-1	1	「3家族以外の介助者」を「3家族以外の支援者にしてはどうか。相談員を含めるため	選択肢3「家族以外の支援者」に修正します。
3	共生のまち部会	2-1	10	「現在受けている医療的ケアを、、、」を「現在受けている医療的ケアがあれば、、、」に修正したらどうか。	問10を「現在受けている医療的ケアがあればお答えください。」に修正します。
4	共生のまち部会	2-1	23	あなたが、現在受けているサービスと、これから利用したいと思うサービスを教えてください。→①にあなたが受けているサービスに○をつけて、②に利用を続けたいサービスに○を付けて、その他に新たに利用したいサービスがあれば、追加で○をつけてください。	設問を「①にあなたが受けているサービスに○をつけて、②に利用を続けたいサービスに○を付けて、その他に新たに利用したいサービスがあれば、②に追加で○をつけてください。」に修正します。
5	共生のまち部会	2-1	25	「8相談支援事業所（社会福祉協議会を除く）」を「相談支援専門員」としたらどうか。 「10障害者相談員」とは誰を指すのか不明確	選択肢の8を「8.相談支援専門員（社会福祉協議会）」に修正し、「9.相談支援専門員（社会福祉協議会を除く）」を追加します。また、「10.障害者相談員」は障害者更生相談員を想定しているため、「10.障害者更生相談員」に修正します。 ※「9.民生委員・児童委員」は「11.民生委員・児童委員」とし「10.障害者更生相談員」のあとに移動、以降の設項目も番号を繰り下げます。
6	とうじしゃG	2-1	12-1	選択肢に「地域の人」を追加してほしい。	R1調査の項目と同様になるよう、選択肢3を「地域の人・友人・知人」に修正します。
7	とうじしゃG	2-1	20-1	7生活するための収入や蓄えがある 「十分な」を取る 節約して生活している人にとっては、「十分な」は、???	「十分な」を取ることで、生活するには足りない収入しかない人も含まれ、回答者が混乱する可能性がありますので、選択肢7を「生活していけるだけの収入や蓄えがある」に修正させていただきます。
8	とうじしゃG	2-1 2-2	12 11	聴覚障害の場合、手話通訳や要約筆記が当てはまると思うが、「支援」のほうが馴染み深く、「介助」というワードに抵抗を感じる。「介助」とあるとどう答えればよいか戸惑う人もいるのではないかと思う。	「介助」→「支援」に修正します。
9	共生のまち部会	2-1 2-2	14 18	選択肢の中に「障害ある方が入居できる住居の確保」を入れたらどうか。	選択肢2を「障害のある人に適した住居の確保」に修正します。
10	とうじしゃG	2-1 2-2	15 12	外出の事で通学、通勤、通所も含まれますか？	含まれます。設問に「～どの程度外出（通学、通勤、通所を含みます。）～」を追加します。
11	共生のまち部会	2-1 2-2	35 26	「災害時に家族が」を「災害時に家族や支援者が」に修正したらどうか。	設問を「災害時に家族や支援者が」に修正します。
12	共生のまち部会	2-1 2-2	36 26	「8避難場所の設備や生活環境への不安」の部分に更に設備だけでなく必要な「支援を受けられるかどうか」を加えたらどうか。	選択肢8を「避難場所の設備や生活環境、支援の有無などへの不安」に修正します。
13	共生のまち部会	2-1 2-2 2-3 2-4	38 28 18 12	設項目に、障害のある人が安心して住める住居等をふやす、を追加	2-1、2-2、2-3は選択肢に「障害のある人に適した住居の確保」を追加します。2-4は選択肢に「障害のある人が安心して住める住居をふやす」を追加します。

アンケート（案）に対する共生のまち部会等からの意見

資料3

R7.9.30時点

No	提出者	資料番号	問番号	内容	回答
14	共生のまち部会	2-1 2-2 2-3 2-4	全般	アンケート内容がいつの時点でのことなのかわかると問に答えやすい。	冒頭「記入にあたってのおねがい」に、「特に指示がない場合は、アンケートの記入時点について回答してください」等の案内を追記します。
15	とうじしゃG	2-2 2-3	34 16	障害の特性を理解した指導員の養成及び配置 子どもの頃から様々な障害者と接し、共に学習する場が必要です。特別な支援員に任せるのではなく、障害のない子どもたちが助けることができることを学んで欲しい。 国は、インクルーシブ教育を推進していませんか？様々な子どもたちが、お互いの違いを認め合い、受け入れる姿勢を学ぶ場 私が聴覚障害だから、身体は動くので、特に感じるのかもしれませんが。 音だけでなく、文字や補聴システムでの情報保障と周りの理解があれば、通常学級で学こともできるのではないかと考えます。 理解者が必要です。	選択肢に「障害の特性を理解した教員・指導員の養成及び配置」を追加します。
16	共生のまち部会	2-3	14	「社会的障壁」「合理的配慮」について、設下に※で用語解説を記載したらどうか。知らなかった方もそれを見ることにより理解へのきっかけになると思う。	ページ数の調整が必要ですが、注釈を追加します。
17	とうじしゃG	2-4	10	1. アイマスク、車いす、手話や筆談、点字などの体験 要約筆記は知らない言葉だと思うので、「筆談」としました。	「筆談」も「要約筆記」も知られていないと感じる場合は、注釈（用語の解説）を入れることは可能です。現状では、「筆談」とします。
18	とうじしゃG	2-4	12	障害のある人もない人もお互いを理解するため交流の機会を増やす の内容を含めて欲しい。支援を増やすことも大切ですが、障害者のことを知ってもらうというより、お互いに理解しあうことが大切。	選択肢「障害のある人となない人との交流の機会を増やす」を追加します。他の他の調査票は「障害のある人となない人との交流の機会の充実」を追加します。
19	とうじしゃG	2-4	4-1	問4-1の次に、「その手助けをしようと思ったのはなぜですか」を追加してほしい。実体験で、道で困ったときに声をかけてくれるのは、5：1くらいで子どもが多い。その行動に至るのはなぜか、とても気になっている。	自由記述欄を追加します。
20	とうじしゃG	2-4	4-1	あなたが実際に行った手助け(ボランティア活動)はなんですか。 2 荷物を代わりに持ったり、高いところの物を取ったりした 9 聞えにくい人に手話や文字、身振りなどで伝えた 10見えにくい人のために朗読活動や道案内をした 2-3の18歳以上も同じですが、障害者に会うことが少ないと思います。ボランティア活動をしているか、または、家族に障害者がいる場合に限られるかも。 要約筆記や点訳など、専門的な言葉ではなく、わかりやすい手助けをあげた方がよいのでは？	選択肢2「荷物を代わりに持ったり、高いところの物をとったりした」に修正します。 選択肢9「聞こえない・聞えにくい人に手話や文字、身振りなどで伝えた」に修正します。 選択肢10「見えない・見えにくい人のために朗読活動を行ったり点字で伝えたりした」に修正します。道案内は、選択肢1や4にも該当するため追加しないこととさせていただきます。 「その他（ ）」を選択肢11に修正します。

※自立支援協議会「共生のまち部会」と「とうじしゃグループ」の皆様からいただいたアンケート案に対する意見から、抜粋して記載しています。

※その他、アンケート案には、市役所関係各課で構成される幹事会からの意見も反映しています。